

## 2. 関節エコーを用いた関節リウマチの診断と評価

関節リウマチ（RA）は、関節の中の滑膜と呼ばれる場所で炎症が生じる疾患です。RA では滑膜が炎症（滑膜炎）によって肥厚することで、関節が腫れたり、痛みが生じたりします。RA の診断・評価には、滑膜炎の存在とその程度を評価することがポイントとなります。

通常は、医師が関節の腫脹と圧痛を診察することで滑膜炎を確認していますが、早期の RA 等で滑膜炎が軽度である場合は、診断が困難な場合があります。近年は関節エコーを活用することで、RA の早期診断や正確な疾患活動性の評価などで有用性が認められています。関節エコー検査は非侵襲的な検査で、関節の状態をリアルタイムで観察することができます。

当院には、日本リウマチ学会が認定するソノグラファーが2名在籍しており、診断や活動性の評価を目的に年間100例以上の検査を行っています。

### 関節エコーを用いた滑膜炎の評価



手指の関節：  
滑膜が軽度肥厚している。



手指の関節：  
肥厚した滑膜に一致して血流（ドプラ シグナル）を認め、活動性滑膜炎の所見